

目 次

巻頭言	麦井 直樹
特集 1 「ハンドセラピー分野での作業療法の可能性」	西出 義明 1
特集 2 「専門性の追求 - 各専門分野に燃える OT たち -」	
～高次脳機能障害～	中嶋 理帆 12
～関節リウマチの医療に作業療法士は必要?～	長田 千里 15
～ハンドセラピーの現状と専門性の追求～	西村 誠次 18
～認知症～	明福真理子 21
研究論文	
1. 食事における机の高さと上肢運動の関係	吉田 美穂・他 25
2. 患者側から見た更衣活動の目的	八神 梓・他 28
3. 当院の作業療法士による外出練習の目的	品田 圭介・他 31
4. 環指 Zone II レベルの屈筋腱剥離術後の夜間屈曲位固定の試み	西村 誠次・他 33
実践報告	
1. 主婦役割認識を喪失したクライアントに対し OSA- II を実施し自己認識を促す きっかけとした一症例	西川 由衣・他 37
2. 自動車シミュレーション導入と現状・今後について	伊藤かおり・他 40
3. 病識の低下, 精神障害のため目標の共有に難渋した頸髄損傷の一症例	森 彩香・他 42
4. 自宅での入浴を強く希望した症例を経験して ～生活行為向上マネジメントを用いた支援～	中川ひかり・他 45
5. A-ONE で効果的な治療戦略が立案できた左脳塞栓の一症例 ～ ADL 障害から高次脳機能障害をクリニカルリーズニングする重要性～	西川 拓志 48
6. 非利き手での食事動作で安全な自力摂取が可能となった一例	生田 隆倫・他 52
7. 発動性欠如, 易興奮性など多様な高次脳機能障害を呈した症例の妻との二人暮らしを 目指して	北谷 渉・他 55
8. 当院緩和ケア病棟における作業療法士の関わり	梶澤 祥子・他 57
9. 反復練習と本人を支持する関わりにより, 基本動作の再獲得と認知機能の改善が みられた症例	明福真理子・他 60
10. 介護老人保健施設入所後に訓練拒否が見られていた事例との関わりから考えること	買手登美子・他 63

投稿規定	66
執筆要項	67

巻頭言

専門性の追求 魅力ある毎日を創る

作業療法士（OT）はリハビリテーションの中では、幅広い疾患や障害に応用的側面からマルチに対応する能力が要求される。一方で近年、認定 OT に続いて、専門 OT が生涯教育制度ですすめられる中、OT の専門性はより細分化されている。医療分野では、各種疾患の診断、治療は日進月歩であり、情報社会においては対象者である患者さんやその家族も最新医療を勉強している。そのような対象者を担当する我々は多くのことを新しく学んでいく必要がある。できればこの毎日の課題を苦痛なく、主体性をもって取り組みたいものである。

周りを見渡すと、得意分野をもち、毎日を活動的に臨床に、研究に取り組む OT が存在する。OT が専門性を追求することは、対象となる患者さんに還元されるだけでなく、人生の多くの時間を費やす 1 人 1 人の OT 自身のモチベーションにもなるのではないかと考える。それは OT の得意技的な意味合いであろうか。昭和の頃、ジャイアント馬場は 16 文キック、アントニオ猪木は卍固め、平成では、古賀稔彦の一本背負い、錦織圭のエアーケイ、浅田真央のトリプルアクセルなど。△△△の分野は、○○ ○○○さんが得意だからきいてみようといった OT の存在はどうだろう。

今年度の学会ではそのような専門をもつ熱い OT（西出義明先生を筆頭に）にご講演いただいた。OT のところに響く時間を過ごすことができたと思う。

金沢大学附属病院 麦井 直樹

編集後記

2020年の東京オリンピック開催決定に沸いた2013年、流行語大賞にも4つの言葉が選ばれ盛り上がった年ではなかったかと思えます。学術部としては県学会参加者も150名を超え盛り上がりを見せました。今後は次期石川県開催の東海北陸学会までに500名以上の参加を目指しております。

さて今年も無事に本刊の発行に至りました。査読や編集にご協力頂いた皆様には心より感謝申し上げます。県学会の盛り上がりと併せて学術雑誌としても発展していきたいと考えております。会員の皆様の活発なご投稿をお待ちしております。

学術部担当理事	麦井 直樹
学術誌編集委員長	堀江 翔
編集委員	出雲 健志
	西 悦子
	菊池 ゆひ
	竹原 詩織
	大島 幸恵
	小林亜里沙
	高崎 聡美
	越田 雄
	宮腰 真
	南 知江
	山本 紗季
	板倉 沙織
	新村菜穂香
	坂 明奈
	蓮池 恵
	高間 達也

石川県作業療法学術雑誌（第22巻 1号）（通巻22号）

2014年3月13日発行

編集 社団法人 石川県作業療法士会

発行所 社団法人 石川県作業療法士会

印刷 ヨシダ印刷株式会社